

キタノミヤマシダ	Diplazium sibiricum (Turcz. ex Kunze) Sa.Kurata var. sibiricum	絶滅危惧Ⅱ類
		イワデンド科
選定理由	全国的に見ても少なく岐阜県では生育地、 個体数共に少なく存続の基盤が脆弱である。	写真(荻山恒弘) 標本 
形態の特徴	夏緑性のシダ植物。根茎は長く這う。葉は3 回羽状深裂～全裂する。孢子嚢群は中肋 近くに着き線形。包膜の縁は細かく裂ける。	
生態的特徴	やや標高の高い山地の林下に生育している。	
分布状況	県北の狭い範囲に見られる。分布の西限に なると思われる。	分布図 
減少要因	生育地の林下の光条件の悪化が要因と思 われる。	
保全対策	生育地の森林の適度な管理が必要である。	
特記事項	変種のミヤマシダは普通に見られるので注 意が必要である。	
参考文献	岩槻邦男. 1992. 日本の野生植物. シダ. P. 257. 平凡社. 東京. 倉田悟・中池敏之(編). 1997. 日本のシダ植物図鑑. 8. P.30. 東京 大学出版会. 東京.	

文責: 荻山恒弘